

平成 24 年度 第 6 回文系チャレンジ講座を開催しました

第 6 回文系チャレンジ講座が、2012 年 11 月 21 日、「経済成長における経済学役割 経済を成長させるには何が必要か？」をテーマに本学経済学部宇野真人准教授によって行われました。遠隔配信された大分雄城台・大分鶴崎・大分商業・日田の 4 校(92 名)と、来学した大分南(41 名)を合わせて、計 133 名の高校生が受講しました。

宇野准教授は、「世界には先進国、中進国、後進国など、所得の大きさの違いや成長度合いによって国が色分けされています。そしてどの国も成長したいと思っています。そこで成長をするためにはどのような方法をとればよいのか？ということが重要になってきます。経済学を知ることによって経済成長を促すためには如何にすべきか？という方法がわかってきます。具体的には現実の国別成長データを眺めながら経済を成長させるには何が必要になってくるのか？ということを経験し、その話しの中で経済学と現実経済の関わりについて紹介していこうと思っています。」と、メッセージを送っています。

講座では、経済成長をさせるには何が必要であるか、経済成長とは何かを確認した上で、各国の経済成長率について考えていきました。その際、発展途上国と先進国をグループ化し、経済成長をもたらす要因であるインフラの整備状況や自由貿易度、修学平均年数等を比較していきました。受講する中で、これらの指標が経済を成長させるか否かのポイントであるのではないかとわかりました。講義の最後には、日本と中国の年収比較や、イタリアの自動車生産・購入についてなど、興味深い話も聞くことができました。経済を成長させるには、何が成長の基盤にあるのかを見つけ出すことが重要であり、それを元に政策の提案を行っていくことが経済学役割の一つであることがわかりました。

経済学を学ぼうとする生徒は多数いますが、これまでは実際にどのようなことを学ぶのかを理解していない生徒も多かったようです。しかし、今回の講座を通して随分と理解を深めることができました。受講生は、経済学が自分たちの生活と切り離せないもので、より身近に感じた時間になったようです。

受講後のアンケート調査では、「総合的に判断して良かった」(96%)、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ)、「教員は真剣に取り組んでいた」(96%)、「授業内容はわかりやすかった」(88%)、「受講生は授業に意欲的に取り組んだ」(88%)と高い評価結果がでました。遠隔配信については、「音声は良く聞こえた」(81%)、「映像はよく見えた」(92%)という結果がでました。

受講生の具体的な声として、「先進国と途上国の経済の動きを視覚的に理解できた。」「図から何を読み取るか。その情報をどのように役立てることができるのかが、理解できた。」「日本の豊かさがどのようにして達成されたかわかった。」「遠隔配信機器を通して、他校生のようにすを知ることができ、参考になった。」「質問の時間がもっと欲しかった。」など多くの感想が寄せられました。

